

16. 「有痛性腫瘍病変への放射線治療における調査用紙を用いた有効性評価」のデータを用いた二次解析

研究の概要

痛みのある腫瘍への放射線治療により、痛みをやわらげる効果が期待できます。しかし、どのような患者様に放射線治療が効きやすいかについて、今のところまだ十分には分かっていません。患者様が受けられた放射線治療について研究を行い、痛みの強さ、痛みが生活に及ぼす影響を調べます。

研究の目的と方法

3施設（熊本大学医学部附属病院、熊本医療センター、人吉医療センター）で施行された、前向き観察研究である「有痛性腫瘍病変への放射線治療における調査用紙を用いた有効性評価」のデータを用いた二次解析を行います。すでに得られている情報に加え、患者背景、検査値、治療内容等のデータを新たにカルテより取得します。

本研究の参加について

「有痛性腫瘍病変への放射線治療における調査用紙を用いた有効性評価」に参加された患者様が研究対象者として選ばれました。本研究は既存のデータに基づいた遡及的研究であるため、研究に参加することで、患者様に健康上の危険や有害事象が増えることはありません。

また、いつでも参加の同意を取り消すことができ、それを理由に患者様が不利益を受けることは一切ありません。すでに提供いただいた情報の研究への利用もいつでも中止可能ですので、そのようなご希望があれば末尾の問い合わせ先までご連絡ください。

調査する内容

- 疾患・患者背景・痛みの特徴・治療因子・検査値等ごとの治療効果の評価、比較
- 放射線治療対象病変以外の有痛性病変の解析
- 適切な痛みの評価法
- Pain Management Index（鎮痛薬の使用の妥当性を評価する指標）に関する解析
- 生存に関する解析
- 一時点の痛みの強さ、機能干渉、患者背景等に関する検討

調査期間

研究期間：2018年4月17日～2038年12月31日

研究成果の発表

本研究の結果は、将来の患者の診療に役立てることを目指すもので、研究成果は論文、学会発表として公表します。

研究代表者

熊本大学大学院生命科学研究部放射線治療医学分野教授 大屋夏生

当院における研究責任者

放射線治療科 富高悦司

問い合わせ先

熊本大学医学部附属病院放射線治療科 齊藤哲雄

TEL: 096-373-5261